

## 人間：乃木希典

*Junko Higasa 2015.6.14*

陸軍大将の乃木に学習院院長就任話が持ち上がった時、乃木は「軍人としての経験はあるが、教育者としての経験はないので」と言って辞退した。それでもと望まれて「学校教育に専念するために軍務を解いて欲しい」と願ったが、「兼任するように」とのことであった。死後の家再興も国家の意思だった。

学習院においては窓から学生の通行する姿が見える場所に執務室を望み、質素を旨とし、早朝から構内の雑草を刈り取り、食事は学生との差別をつけないように申し付け、食堂食器持ち出し禁止という学則に従って、執務室で食べる時は弁当箱を持参した。用がある時も人を呼び付けず自分から出向いた。

あるとき建築現場で煙草を吸ったら、建築家の久留正道だけが地位におもねることなく注意した。その時から二人は親友になり、久留が病床にあっても他の建築家に心移すことなく見舞って相談した。

また執務室では、一日の水は大きなやかん一杯の使用で賄い、旅順で使用した長靴は間違えずに素早くはけるように左右の区別がなかったという。旅順開城の際、天皇がステッセル將軍の勇断を称え劍の付帯を許した御札に贈られた馬を、国内繁殖させた。

戦時帰還の際は、自分より先に馬に水を飲ませ、自刃の朝には愛馬たちにカステラを与えて別れを告げたという。乃木希典夫妻は、戦争がなければ「最も幸福に生れた人間の一对」であったに違いない。